

(48) しつこく同じ話をしたり、不快な音を立てることが（同じ話をする）

予防有用型では、しつこく同じ話をしたり、不快な音を立てることについては、初回は、「ない」が5,925名（89.8%）で、「ときどきある」が275名（4.2%）で、「ある」が397名（6.0%）であった。2回目は、「ない」が5,920名（89.7%）で、「ときどきある」が265名（4.0%）で、「ある」が412名（6.2%）であった。3回目は、「ない」が5,916名（89.7%）で、「ときどきある」が244名（3.7%）で、「ある」が437名（6.6%）であった。4回目は、「ない」が5,875名（89.1%）で、「ときどきある」が260名（3.9%）で、「ある」が462名（7.0%）であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合の変化は、少なかった。ただし、同じ話をする割合は、予防有用型のほうが少なく、ほぼ半分程度であった。

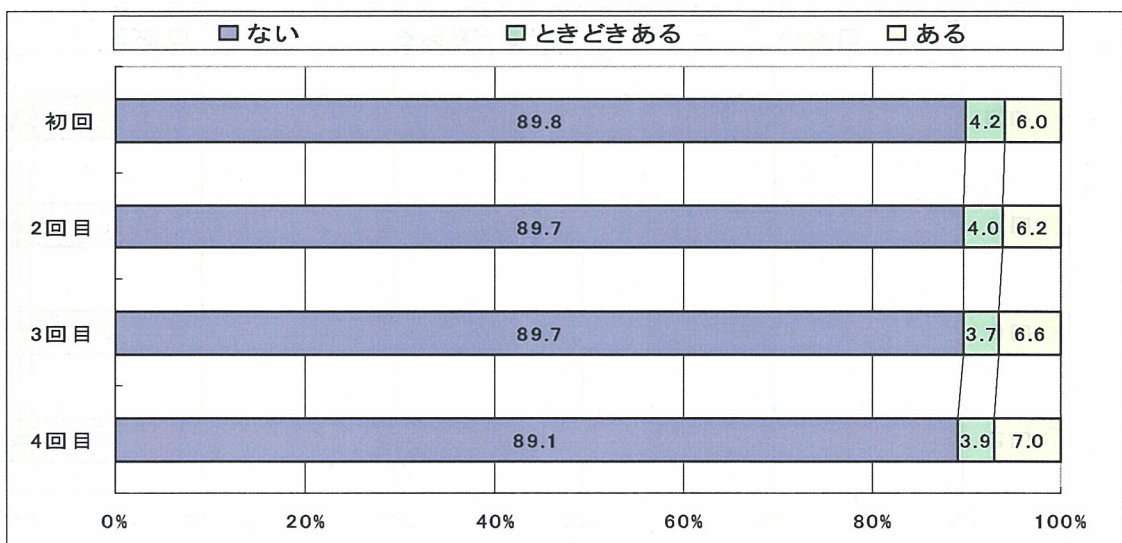
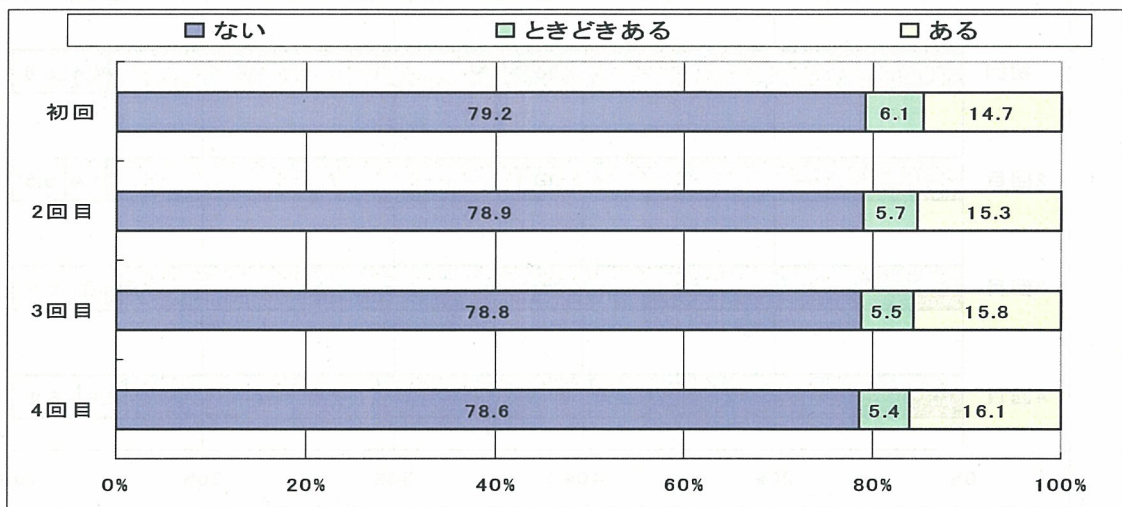


図 295・296 同じ話をする（上：全体 N=16,156，下：予防有用型 N=6,597）

(49) 大声をだすことが (大声を出す)

予防有用型では、大声をだすことについては、初回は、「ない」が 6,463 名 (98.0 %) で、「ときどきある」が 77 名 (1.2 %) で、「ある」が 57 名 (0.9 %) であった。2 回目は、「ない」が 6,484 名 (98.3 %) で、「ときどきある」が 74 名 (1.1 %) で、「ある」が 39 名 (0.6 %) であった。3 回目は、「ない」が 6,480 名 (98.2 %) で、「ときどきある」が 82 名 (1.2 %) で、「ある」が 35 名 (0.5 %) であった。4 回目は、「ない」が 6,475 名 (98.2 %) で、「ときどきある」が 71 名 (1.1 %) で、「ある」が 51 名 (0.8 %) であった。

全体の傾向としては、2 回目から 4 回目にかけて、大声を出すという問題行動が「ときどきある」「ある」の割合は増加していたが、予防有用型群は、初回から 4 回目において、この割合には、ほとんど変化がなかった。

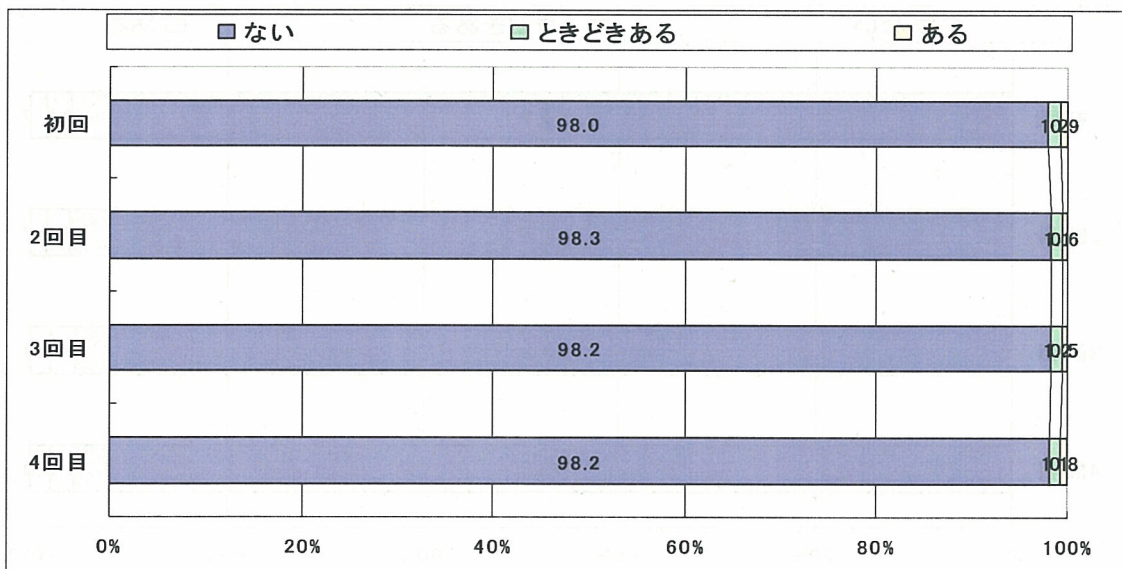
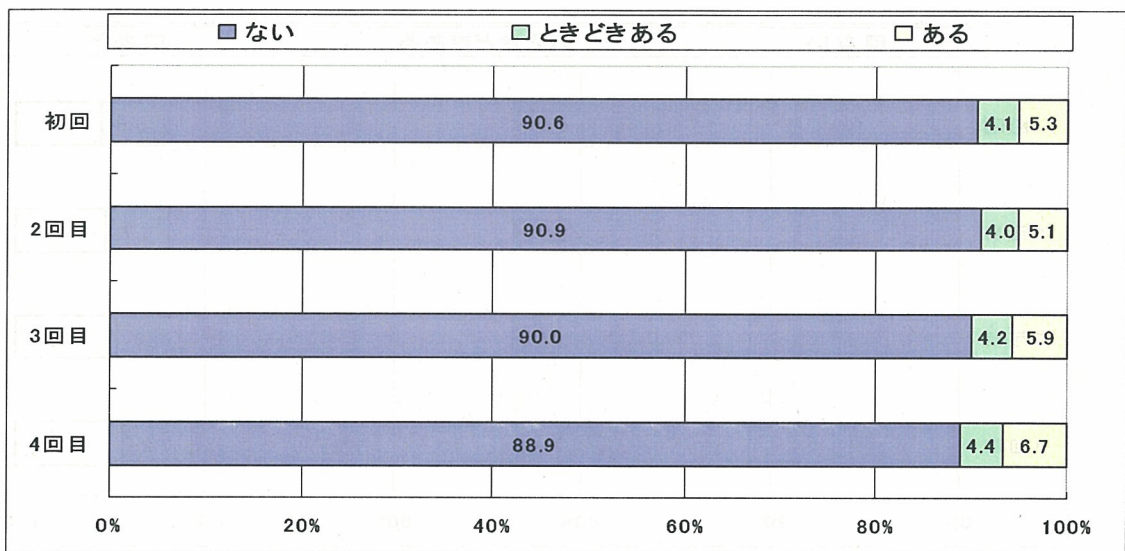


図 297・298 大声を出す (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(50) 助言や介護に抵抗することが (介護に抵抗)

予防有用型では、助言や介護に抵抗することについて、初回は、「ない」が 6,322 名 (95.8 %) で、「ときどきある」が 163 名 (2.5 %) で、「ある」が 112 名 (1.7 %) であった。2 回目は、「ない」が 6,334 名 (96.0 %) で、「ときどきある」が 151 名 (2.3 %) で、「ある」が 112 名 (1.7 %) であった。3 回目は、「ない」が 6,304 名 (95.6 %) で、「ときどきある」が 161 名 (2.4 %) で、「ある」が 132 名 (2.0 %) であった。4 回目は、「ない」が 6,313 名 (95.7 %) で、「ときどきある」が 153 名 (2.3 %) で、「ある」が 131 名 (2.0 %) であった。

全体の傾向としては、初回から 4 回目まで、「ときどきある」「ある」の割合が増加していたが、予防有用型群は、この割合にほとんど変化がなかった。

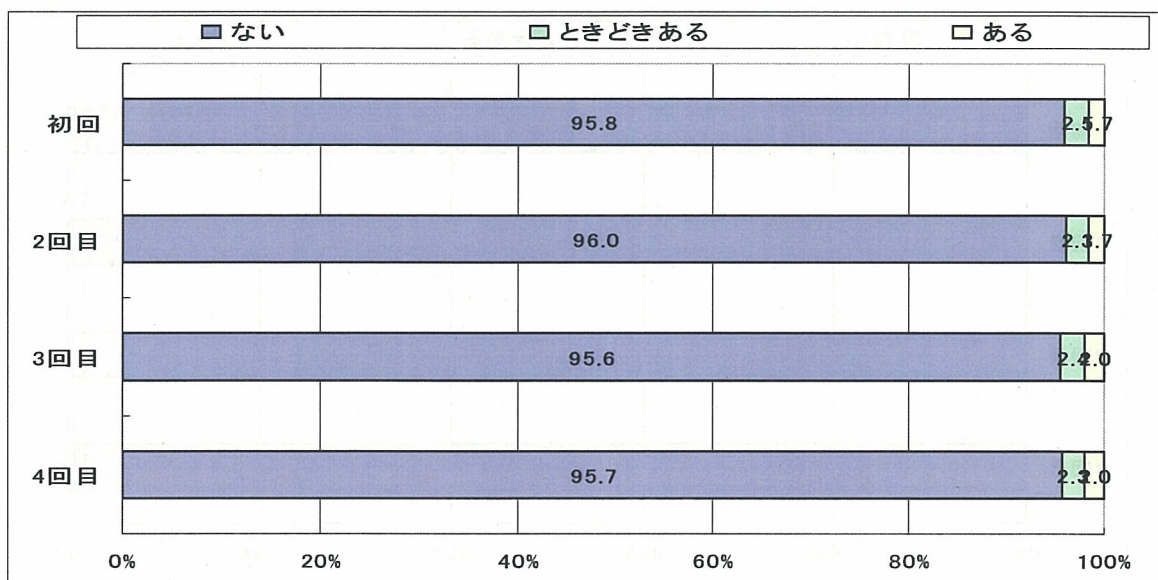
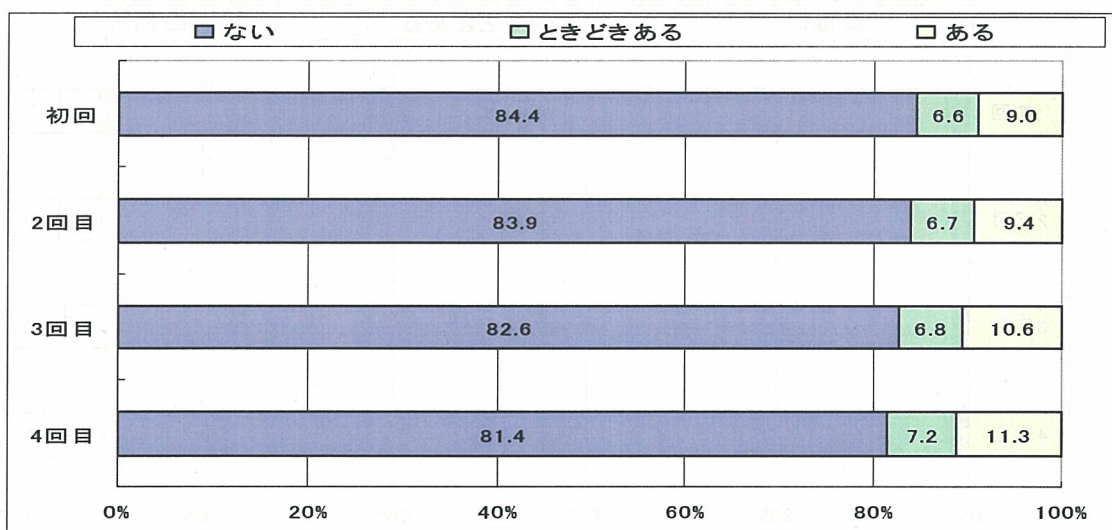


図 299・300 介護に抵抗 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(51) 常時の徘徊

予防有用型では、目的もなく動き回ることに、初回は、「ない」が 6,522 名 (98.9 %) で、「ときどきある」が 44 名 (0.7 %) で、「ある」が 31 名 (0.5 %) であった。2 回目は、「ない」が 6,550 名 (99.3 %) で、「ときどきある」が 26 名 (0.4 %) で、「ある」が 21 名 (0.3 %) であった。3 回目は、「ない」が 6,555 名 (99.4 %) で、「ときどきある」が 20 名 (0.3 %) で、「ある」が 22 名 (0.3 %) であった。4 回目は、「ない」が 6,550 名 (99.3 %) で、「ときどきある」が 25 名 (0.4 %) で、「ある」が 22 名 (0.3 %) であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から 4 回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合には、ほとんど変化がなかった。ほぼ 99% に、この問題行動は発生していなかった。

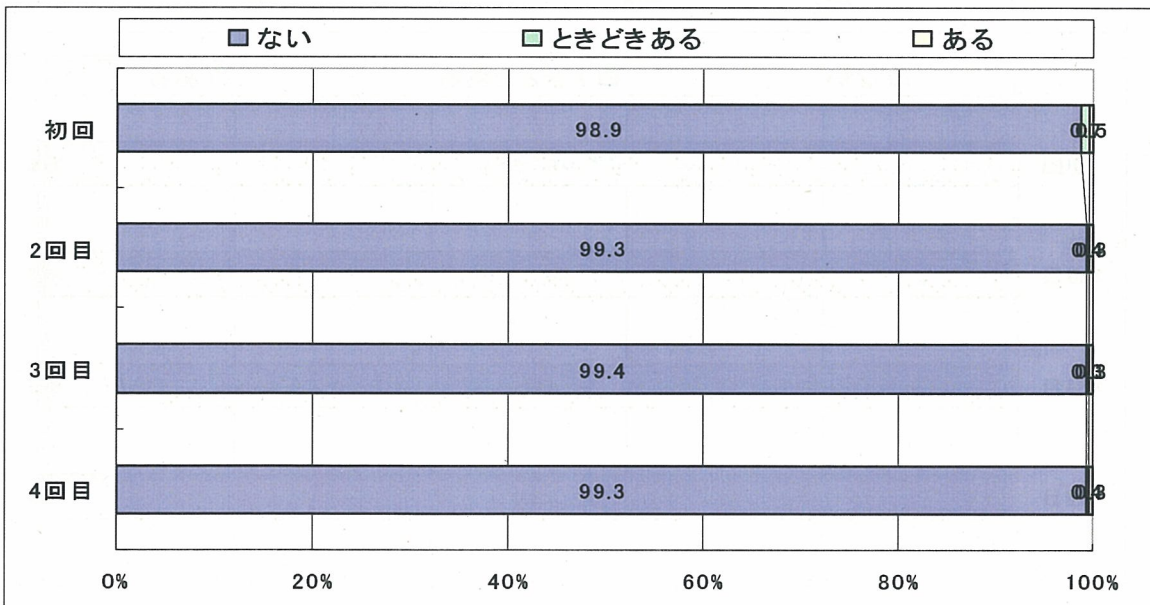
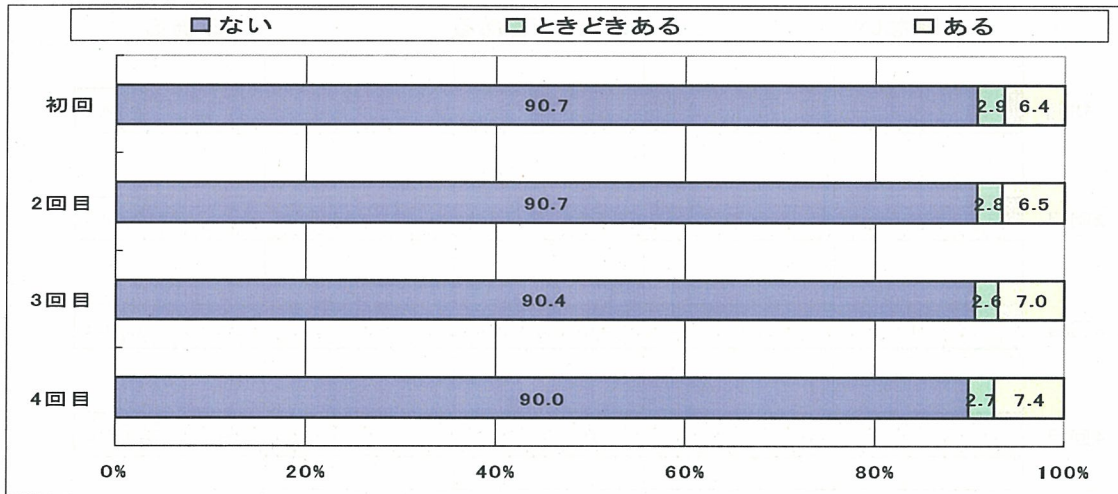


図 301・302 常時の徘徊 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(52) 「家に帰る」等と言い落ち着きがなくなる (帰宅願望)

予防有用型では、「家に帰る」等と言い落ち着きがなくなることについては、初回は、「ない」が6,525名(98.9%)で、「ときどきある」が38名(0.6%)で、「ある」が34名(0.5%)であった。2回目は、「ない」が6,554名(99.3%)で、「ときどきある」が28名(0.4%)で、「ある」が15名(0.2%)であった。3回目は、「ない」が6,523名(98.9%)で、「ときどきある」が40名(0.6%)で、「ある」が34名(0.5%)であった。4回目は、「ない」が6,532名(99.0%)で、「ときどきある」が36名(0.5%)で、「ある」が29名(0.4%)であった。

全体の傾向としては、認定回数が増加するにしたがって、若干、帰宅願望による門d内行動も増加していたが、予防有用型群では、初回から、4回まで98%以上の者に、この問題行動は発生していなかった。

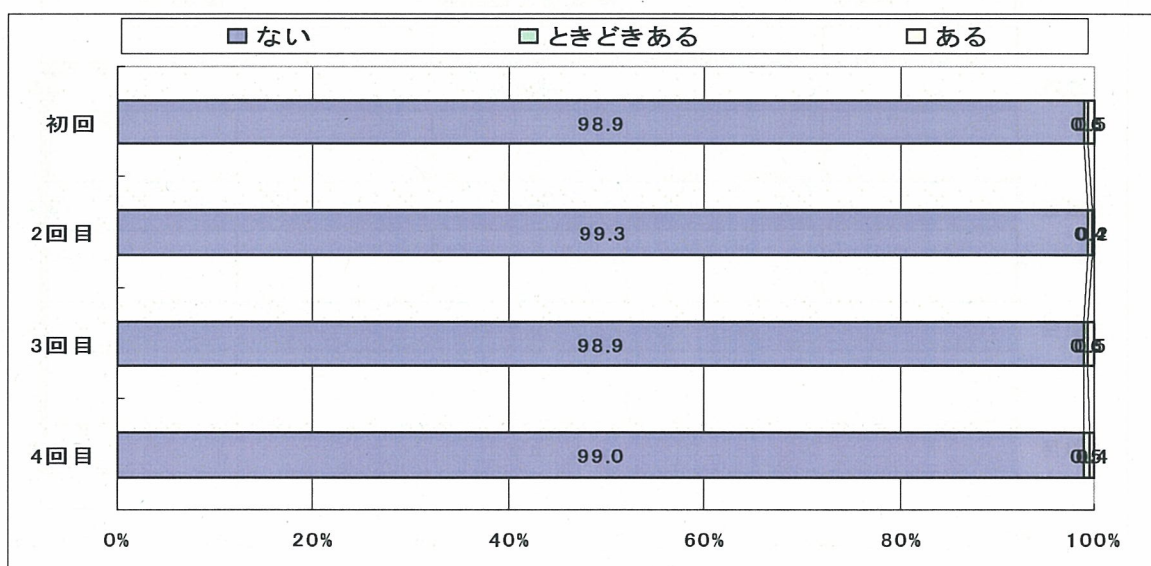
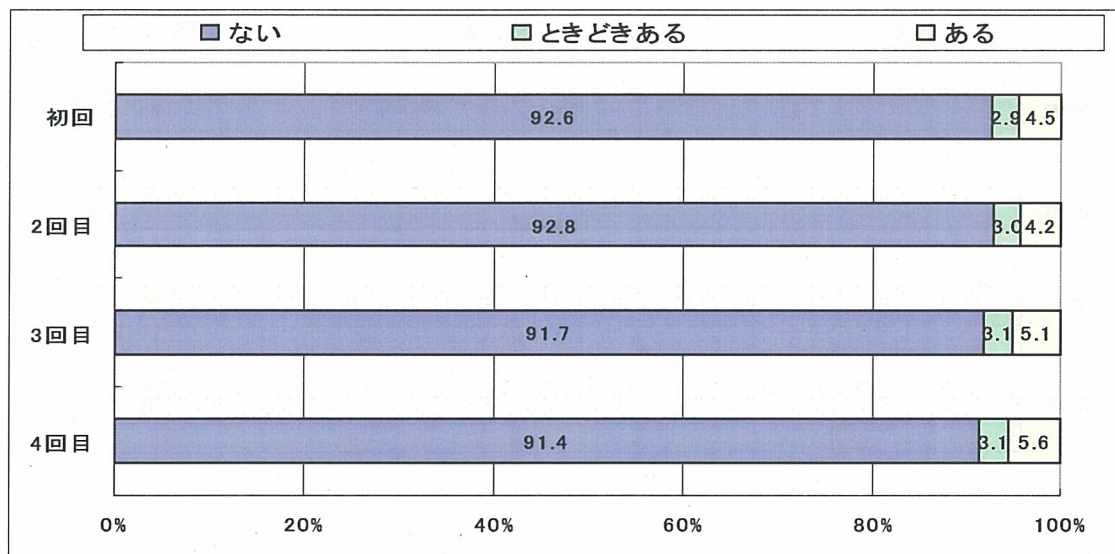


図 303・304 帰宅願望による落ち着きなし (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(53) 外出すると病院、施設、家などに人で戻れなくなることが（外出して戻れない）

予防有用型では、外出すると病院、施設、家などに人で戻れなくなることについては、初回は、「ない」が6,540名（99.1%）で、「ときどきある」が35名（0.5%）で、「ある」が22名（0.3%）であった。2回目は、「ない」が6,548名（99.3%）で、「ときどきある」が36名（0.5%）で、「ある」が13名（0.2%）であった。3回目は、「ない」が6,559名（99.4%）で、「ときどきある」が22名（0.3%）で、「ある」が16名（0.2%）であった。4回目は、「ない」が6,557名（99.4%）で、「ときどきある」が27名（0.4%）で、「ある」が13名（0.2%）であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても、初回から4回目の変化はほとんどなく、99%以上に、この問題行動はなかった。

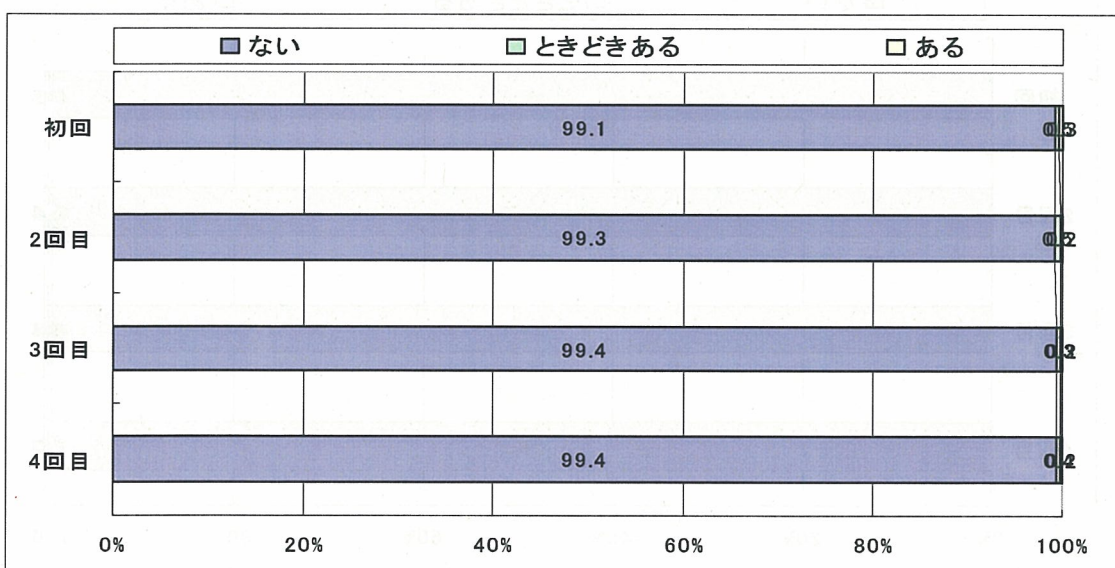
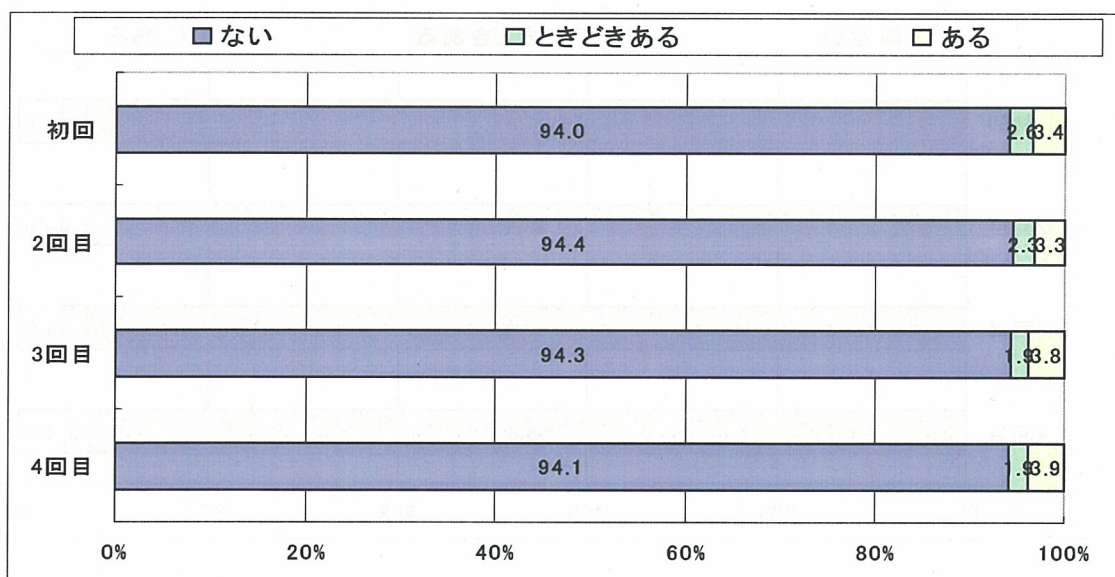


図 305・306 外出して戻れない（上：全体N=16,156，下：予防有用型N=6,597）

(54) 1人で外に出たがり目が離せないことが（一人で出たがる）

予防有用型では、1人で外に出たがり目が離せないことについては、初回は、「ない」が6,549名（99.3%）で、「ときどきある」が18名（0.3%）で、「ある」が30名（0.5%）であった。2回目は、「ない」が6,547名（99.2%）で、「ときどきある」が24名（0.4%）で、「ある」が26名（0.4%）であった。3回目は、「ない」が6,538名（99.1%）で、「ときどきある」が34名（0.5%）で、「ある」が25名（0.4%）であった。4回目は、「ない」が6,543名（99.2%）で、「ときどきある」が32名（0.5%）で、「ある」が22名（0.3%）であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても、初回から4回目の変化はほとんどなく、99%以上に、この問題行動はなかった。

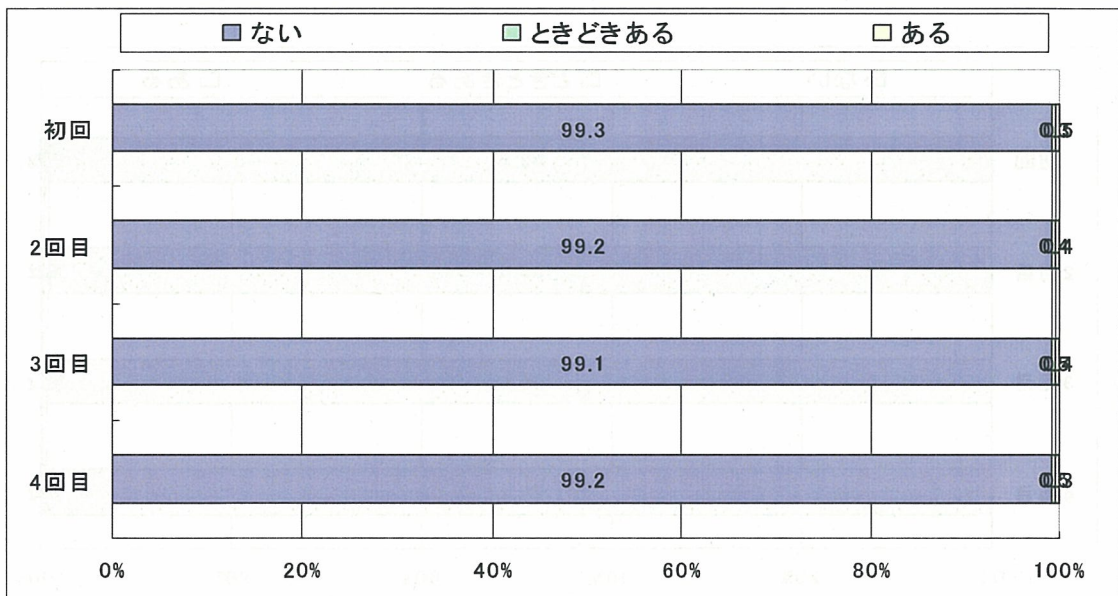
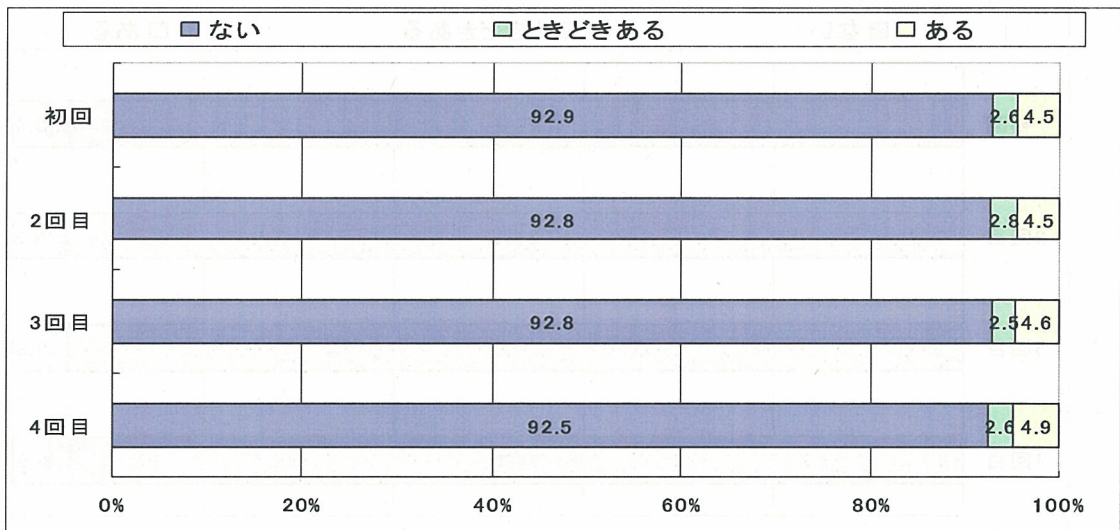


図 307・308 一人で出たがる（上：全体 N=16,156，下：予防有用型 N=6,597）

(55) いろいろなものを集めたり、無断でもってくるものが (収集癖)

予防有用型では、いろいろなものを集めたり、無断でもってくることについては、初回は、「ない」が6,570名(99.6%)で、「ときどきある」が13名(0.2%)で、「ある」が14名(0.2%)であった。2回目は、「ない」が6,563名(99.5%)で、「ときどきある」が19名(0.3%)で、「ある」が15名(0.2%)であった。3回目は、「ない」が6,563名(99.5%)で、「ときどきある」が13名(0.2%)で、「ある」が21名(0.3%)であった。4回目は、「ない」が6,543名(99.2%)で、「ときどきある」が19名(0.3%)で、「ある」が35名(0.5%)であった。

全体の傾向と比較して、全体は初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合が増加するが、予防有用型群には、変化はなく、すべての回において、99%以上に、この問題行動はなかった。

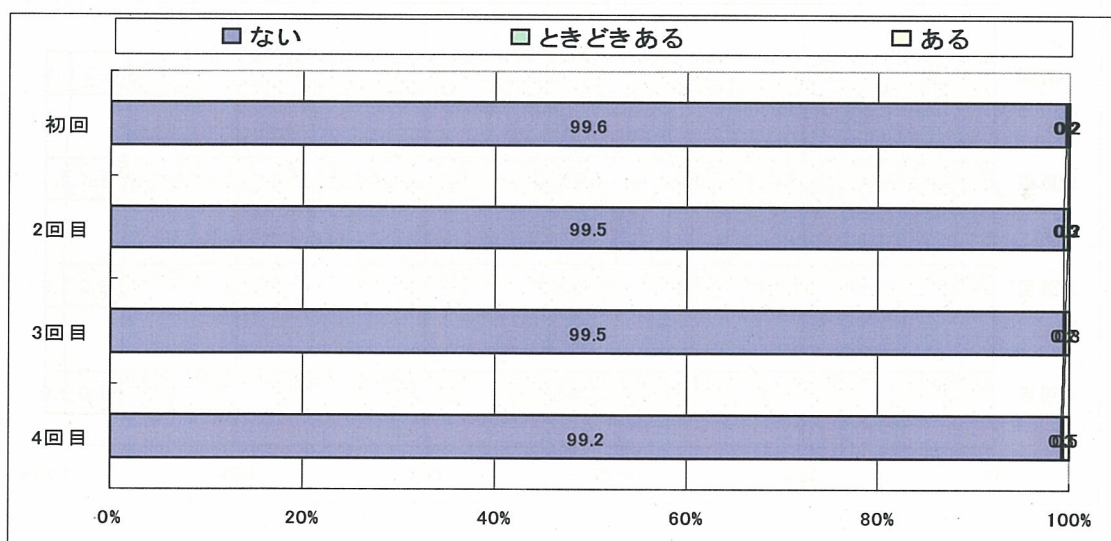
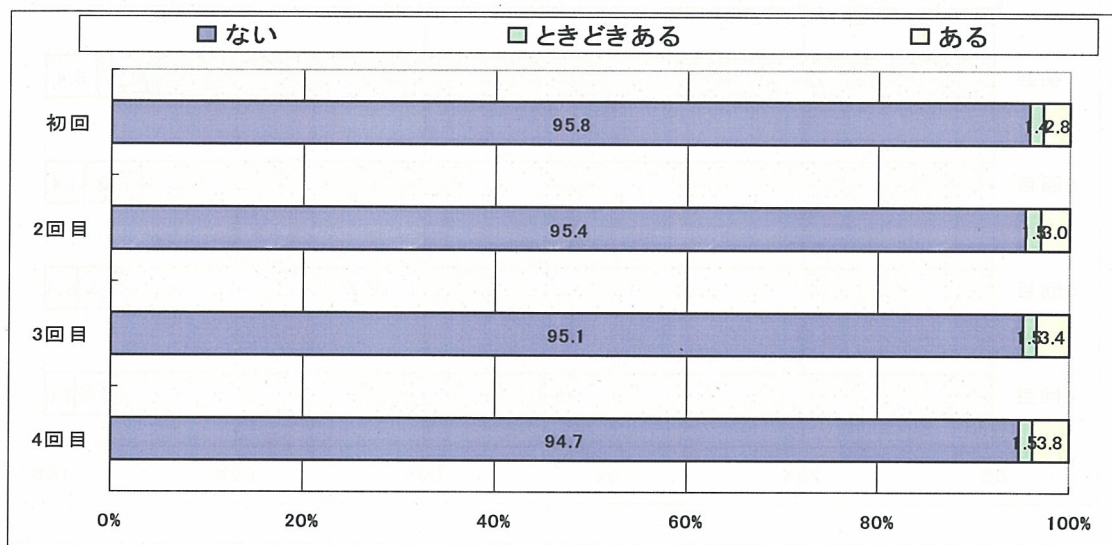


図 309・310 収集癖 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(56) 火の始末や火元の管理ができないことが (火の不始末)

予防有用型では、火の始末や火元の管理ができないことについては、初回は、「ない」が6,015名(91.2%)で、「ときどきある」が415名(6.3%)で、「ある」が167名(2.5%)であった。2回目は、「ない」が6,036名(91.5%)で、「ときどきある」が421名(6.4%)で、「ある」が140名(2.1%)であった。3回目は、「ない」が6,058名(91.8%)で、「ときどきある」が414名(6.3%)で、「ある」が125名(1.9%)であった。4回目は、「ない」が6,067名(92.0%)で、「ときどきある」が395名(6.0%)で、「ある」が135名(2.0%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合は減少していた。

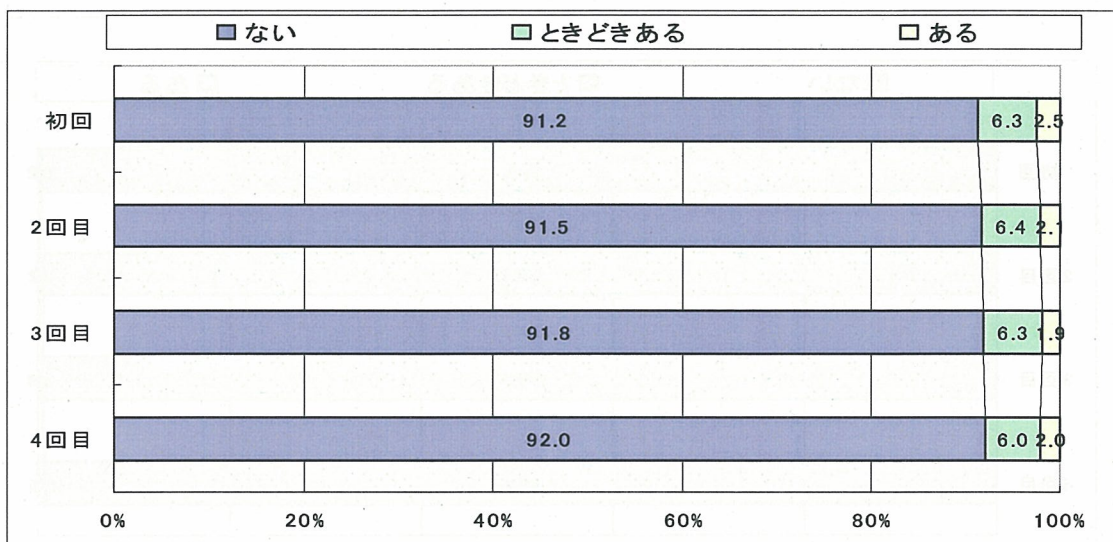
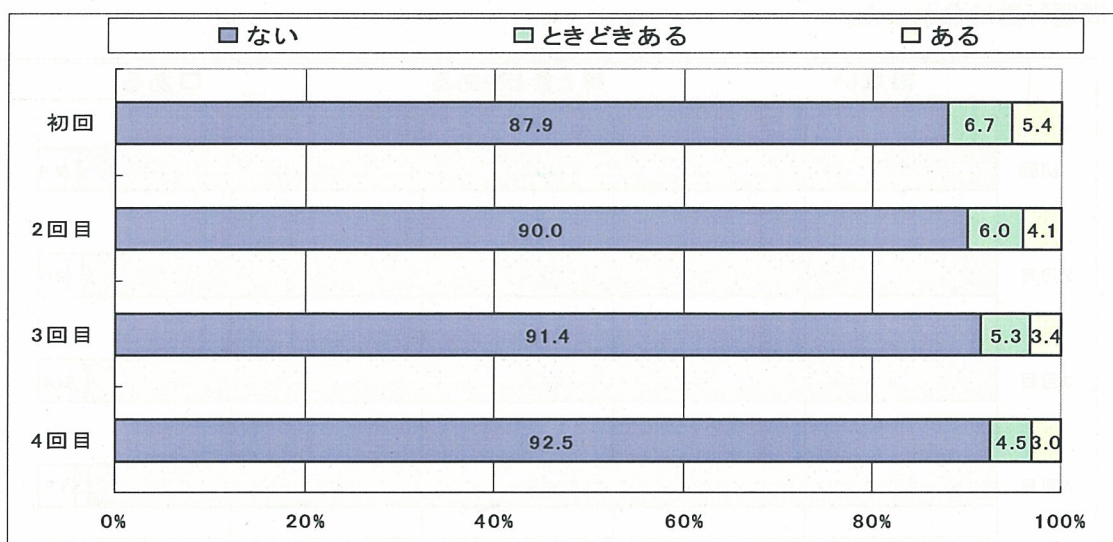


図 311・312 火の不始末 (上：全体N=16,156, 下：予防有用型N=6,597)

(57) 物や衣類を壊したり、破いたりすることが (物や衣類を壊す)

予防有用型では、物や衣類を壊したり、破いたりするについては、初回は、「ない」が6,583名(99.8%)で、「ときどきある」が12名(0.2%)で、「ある」が2名(0.0%)であった。2回目は、「ない」が6,585名(99.8%)で、「ときどきある」が11名(0.2%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。3回目は、「ない」が6,591名(99.9%)で、「ときどきある」が5名(0.1%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。4回目は、「ない」が6,590名(99.9%)で、「ときどきある」が6名(0.1%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても初回から4回目にかけて、「ときどきある」「ある」の割合は低く、介護予防有用型では、0.2%か0.1%であった。初回から4回目までの変動もほとんどなかった。

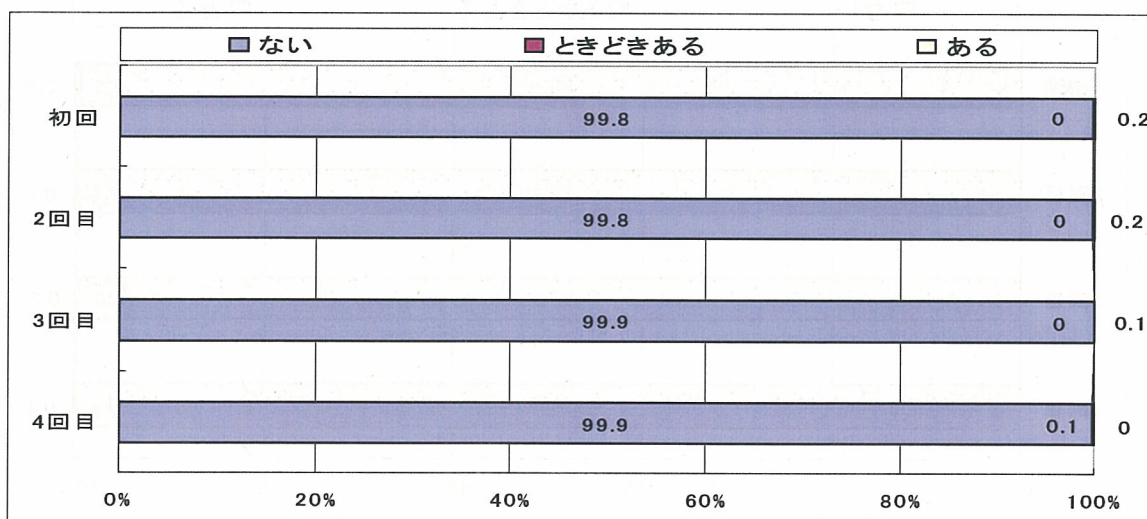
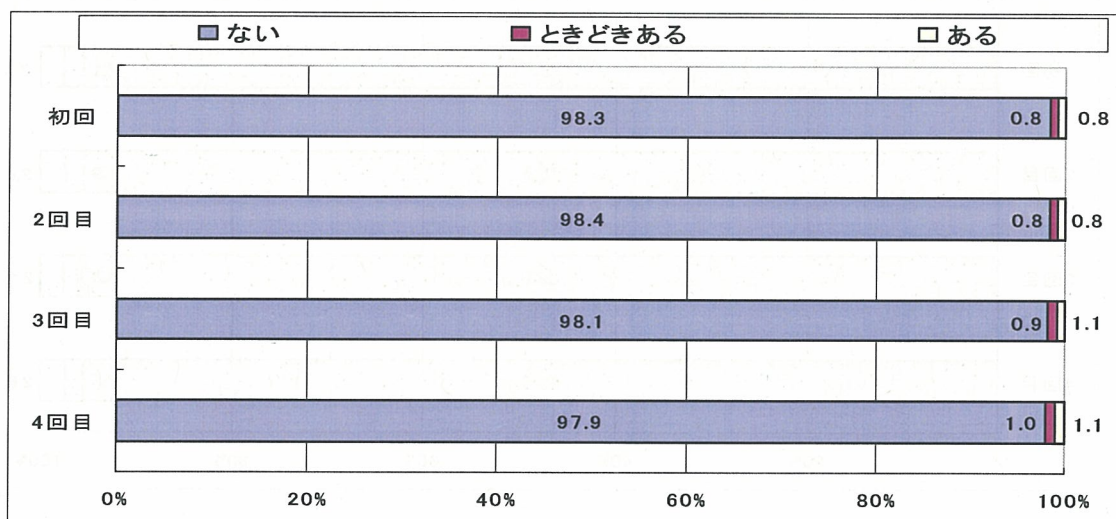


図 313・314 物や衣類を壊す (上：全体 N=16,156, 下：予防有用型 N=6,597)

(58) 不潔行為

予防有用型では、不潔な行為を行うことについては、初回は、「ない」が6,556名(99.4%)で、「ときどきある」が21名(0.3%)で、「ある」が20名(0.3%)であった。2回目は、「ない」が6,570名(99.6%)で、「ときどきある」が12名(0.2%)で、「ある」が15名(0.2%)であった。3回目は、「ない」が6,575名(99.7%)で、「ときどきある」が12名(0.2%)で、「ある」が10名(0.2%)であった。4回目は、「ない」が6,582名(99.8%)で、「ときどきある」が10名(0.2%)で、「ある」が5名(0.1%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合は、低く0.6%から0.2%であった。初回から4回目の変動もほとんどなかった。

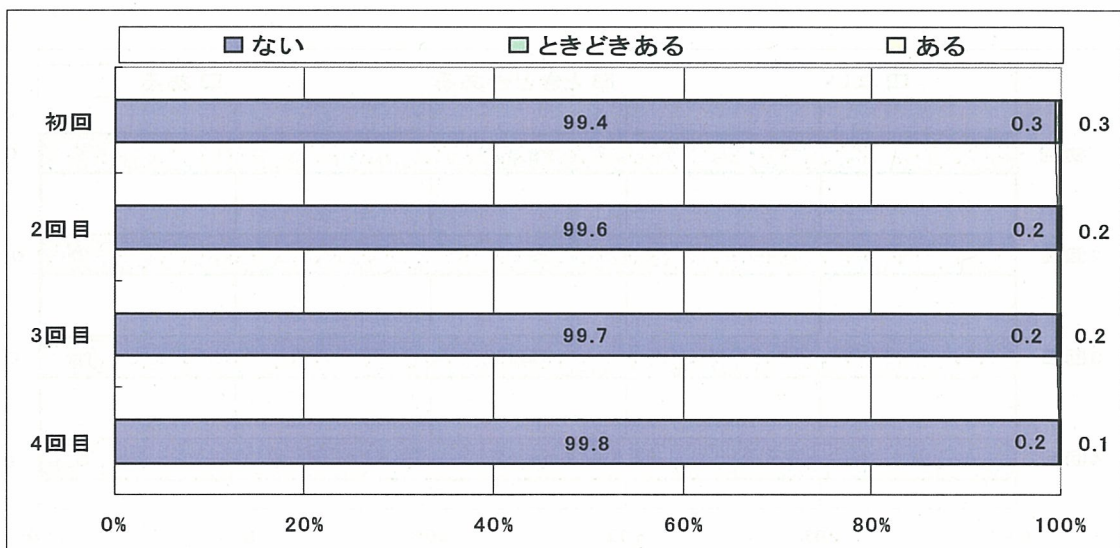
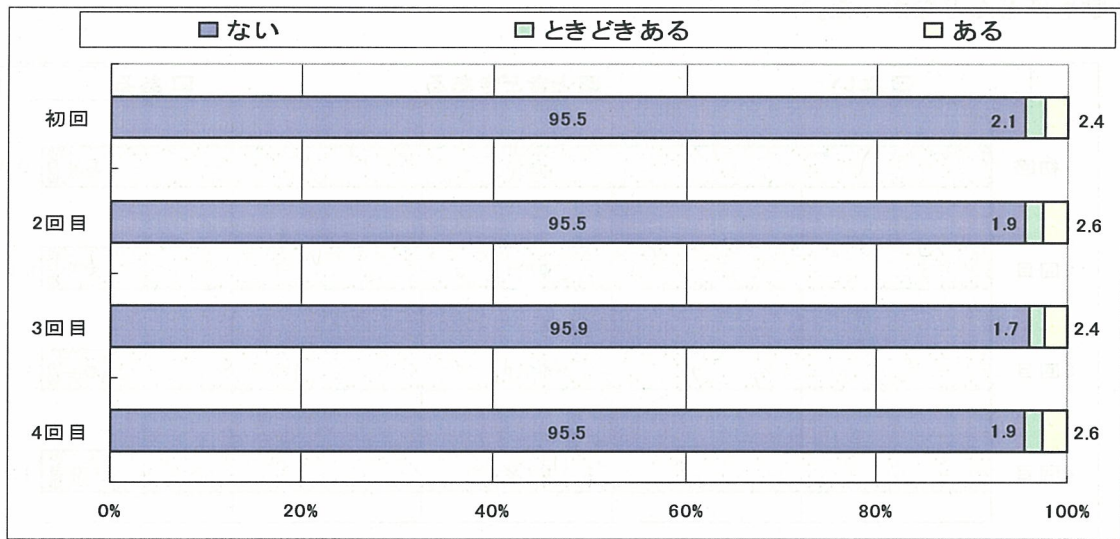


図 315・316 不潔行為 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(59) 食べられないものを口に入れることが (異食行動)

予防有用型では、食べられないものを口に入れることについては、初回は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ときどきある」が4名(0.1%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。2回目は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ときどきある」が4名(0.1%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。3回目は、「ない」が6,595名(100.0%)で、「ときどきある」が1名(0.0%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。4回目は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ときどきある」が5名(0.1%)で、「ある」が0名(0.0%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群についても、異食行動は、ほとんど発生していなかった。

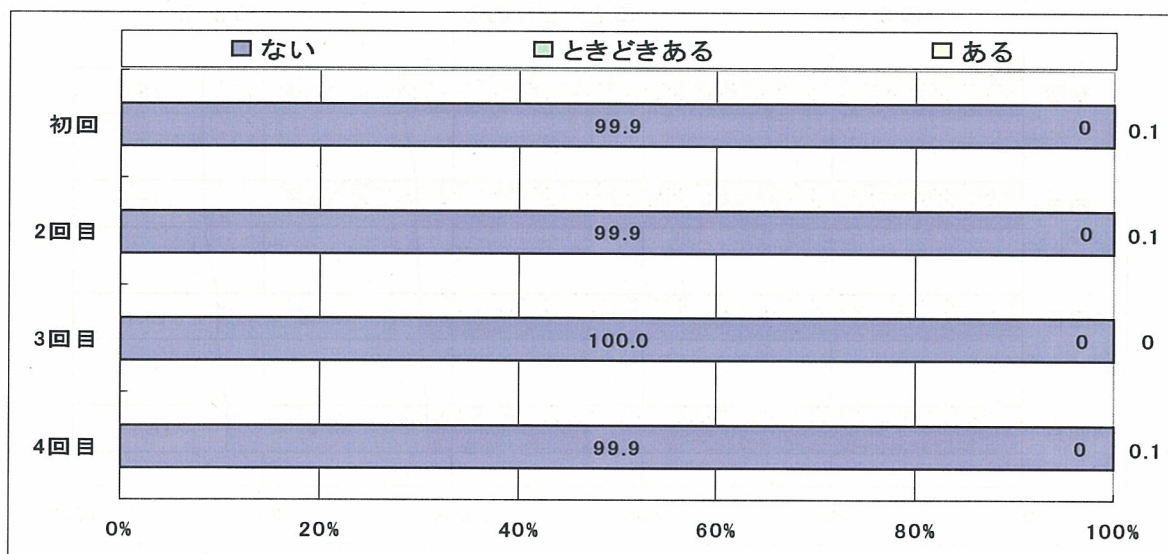
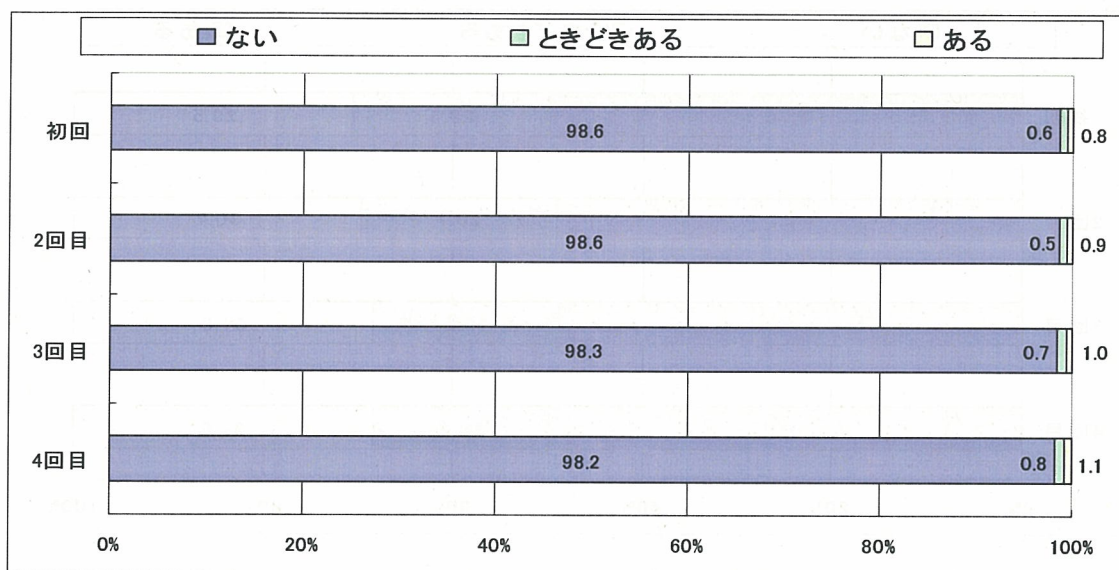


図 317・318 異食行為 (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(60) ひどい物忘れ

予防有用型では、ひどい物忘れについては、初回は、「ない」が4,306名(65.3%)で、「ときどきある」が1,396名(21.2%)で、「ある」が895名(13.6%)であった。2回目は、「ない」が4,214名(63.9%)で、「ときどきある」が1,470名(22.3%)で、「ある」が913名(13.8%)であった。3回目は、「ない」が4,183名(63.4%)で、「ときどきある」が1,416名(21.5%)で、「ある」が998名(15.1%)であった。4回目は、「ない」が4,132名(62.6%)で、「ときどきある」が1,401名(21.2%)で、「ある」が1,064名(16.1%)であった。

全体の傾向と比較すると予防有用型群は、初回から4回目にかけて「ときどきある」「ある」の割合が漸次、増加する傾向があることがわかった。

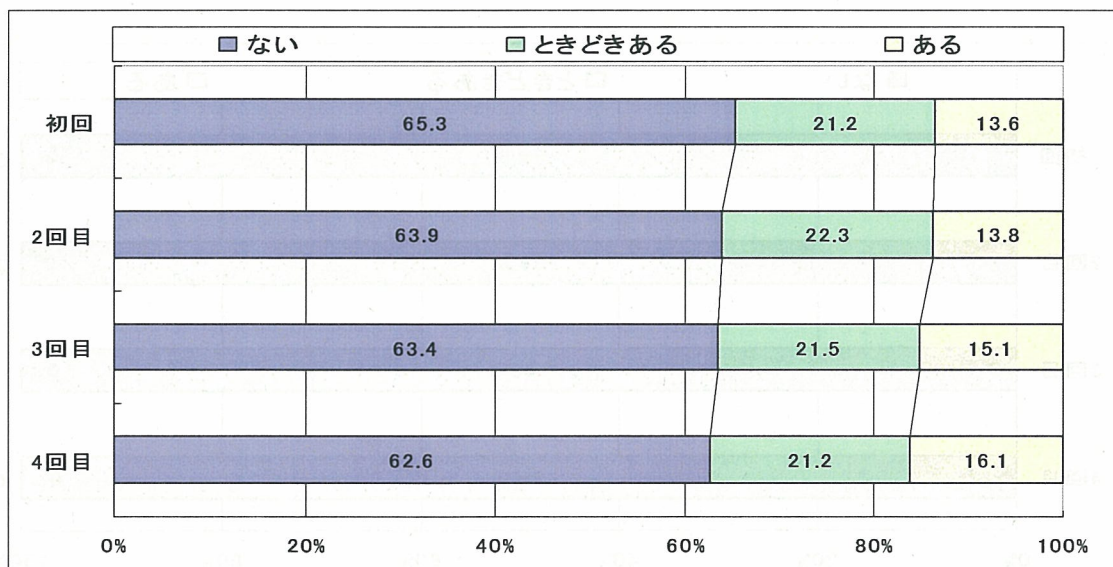
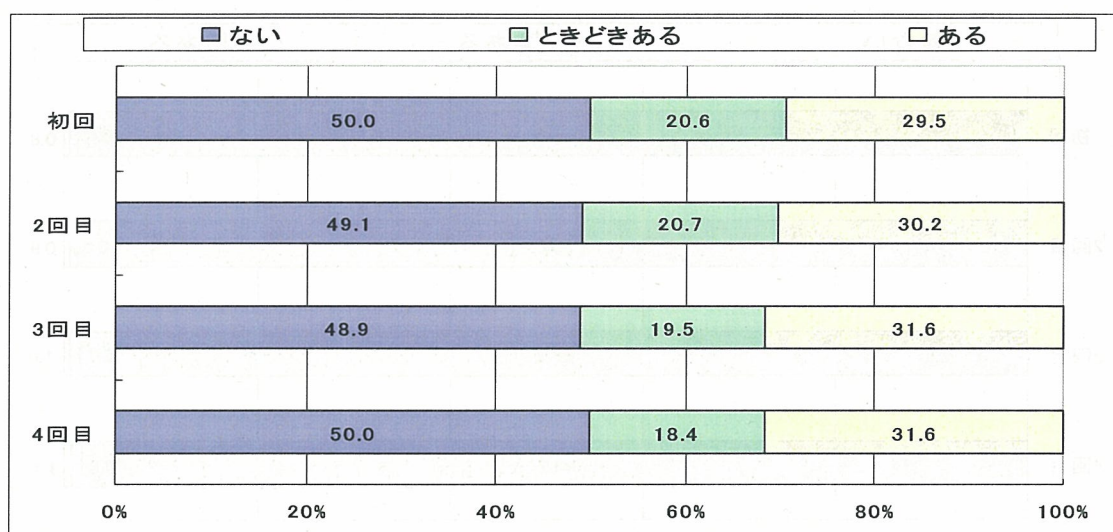


図 319・320 ひどい物忘れ (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

2.医療処置項目からみた経年的変化

(1) 点滴の管理

予防有用型では、点滴の管理については、初回は、「ない」が6,197名(93.9%)で、「ある」が400名(6.1%)であった。2回目は、「ない」が6,323名(95.8%)で、「ある」が274名(4.2%)であった。3回目は、「ない」が6,337名(96.1%)で、「ある」が260名(3.9%)であった。4回目は、「ない」が6,364名(96.5%)で、「ある」が233名(3.5%)であった。

全体の傾向とほぼ類似していたが、予防有用型群は、初回から4回目にかけて「ある」の割合が減少していた。

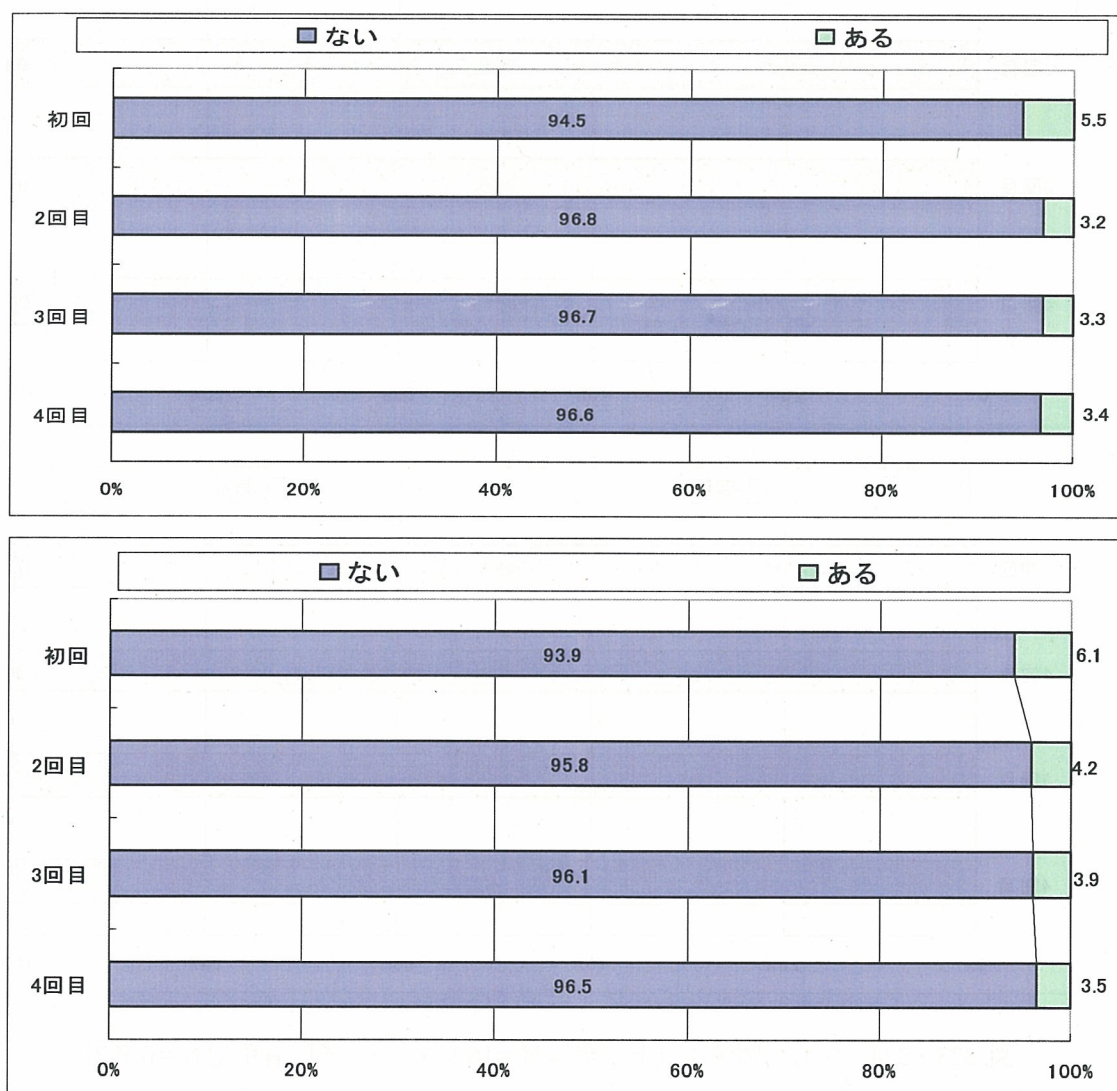


図 321・322 点滴の管理 (上:全体N=16,156, 下:予防有用型N=6,597)

(2) 中心静脈栄養

予防有用型では、中心静脈栄養については、初回は、「ない」が6,587名(99.8%)で、「ある」が10名(0.2%)であった。2回目は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ある」が5名(0.1%)であった。3回目は、「ない」が6,593名(99.9%)で、「ある」が4名(0.1%)であった。4回目は、「ない」が6,595名(100.0%)で、「ある」が2名(0.0%)であった。全体の傾向と同様に予防有用型群では、中心静脈栄養は使っていなかった。

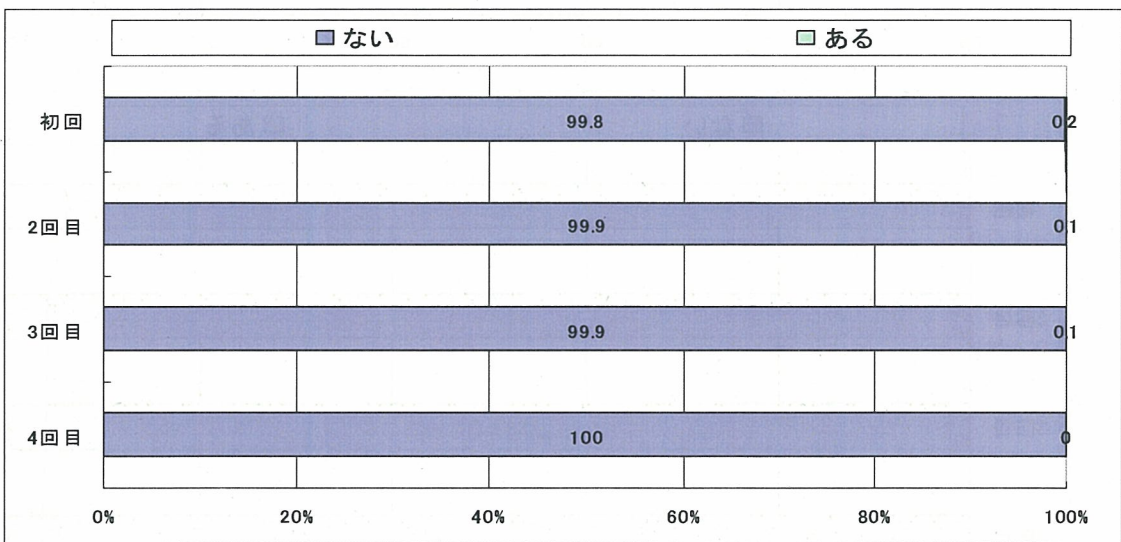
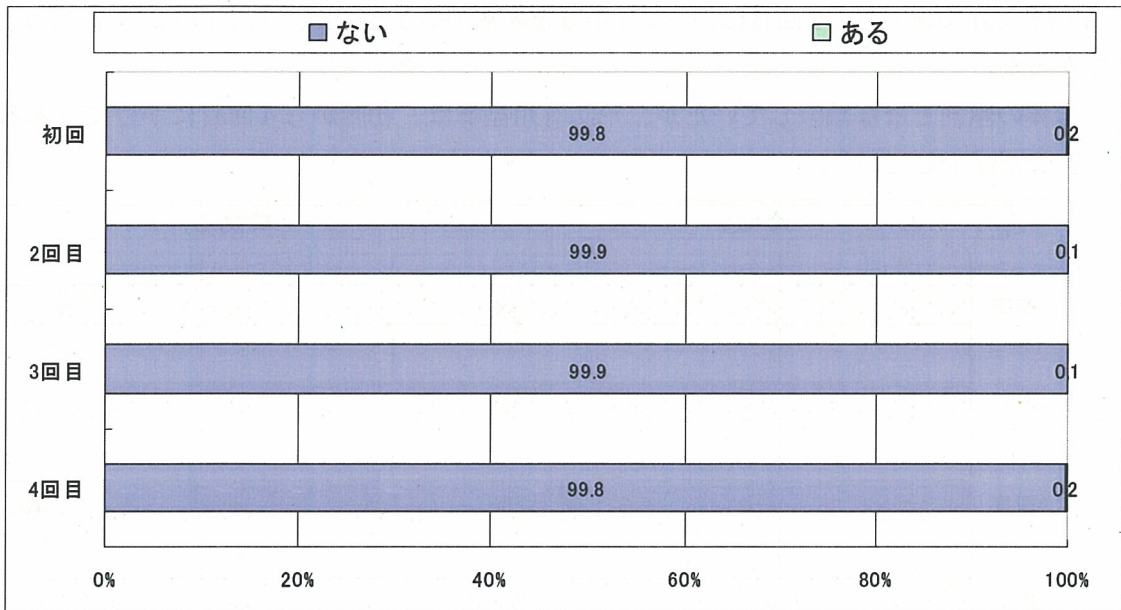


図 323・324 中心性脈栄養 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(3) 透析

予防有用型では、透析について、初回は、「ない」が6,519名(98.8%)で、「ある」が78名(1.2%)であった。2回目は、「ない」が6,512名(98.7%)で、「ある」が85名(1.3%)であった。3回目は、「ない」が6,504名(98.6%)で、「ある」が93名(1.4%)であった。4回目は、「ない」が6,495名(98.5%)で、「ある」が102名(1.5%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「透析あり」の割合は増加していた。

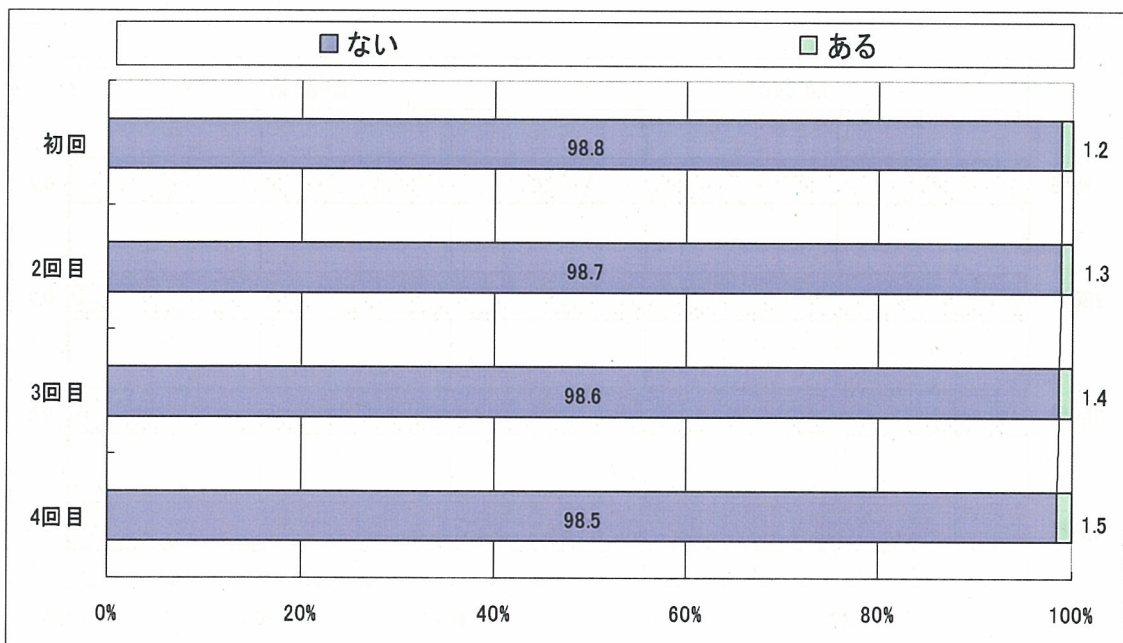
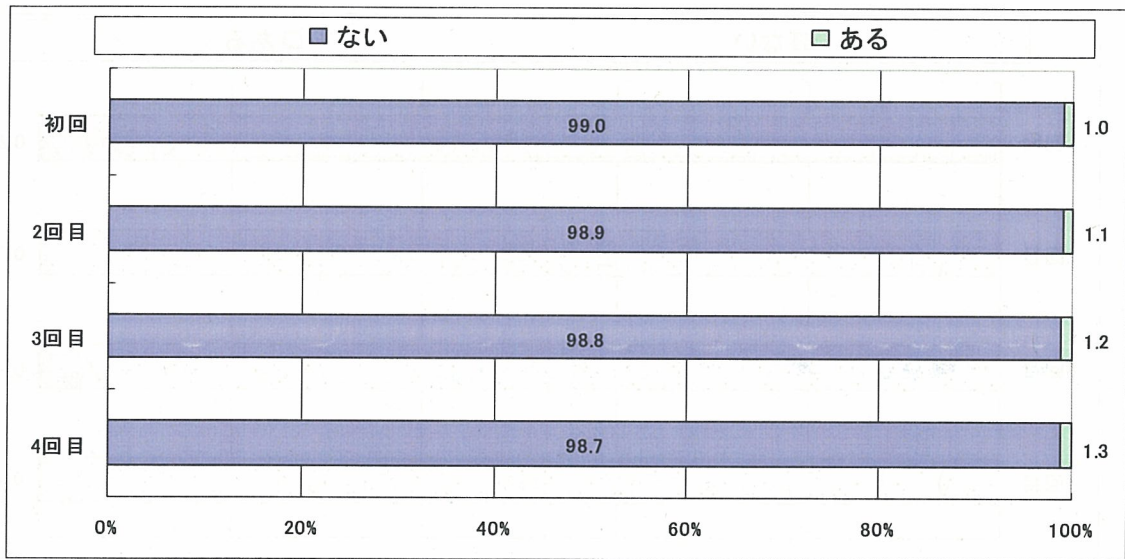


図 325・326 透析 (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(4) ストーマの処置

予防有用型では、ストーマの処置については、初回は、「ない」が6,583名(99.8%)で、「ある」が14名(0.2%)であった。2回目は、「ない」が6,580名(99.7%)で、「ある」が17名(0.3%)であった。3回目は、「ない」が6,581名(99.8%)で、「ある」が16名(0.2%)であった。4回目は、「ない」が6,580名(99.7%)で、「ある」が17名(0.3%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「ストーマの処置」は発生しておらず、回数別の発生率にも、ほとんど変化がなかった。

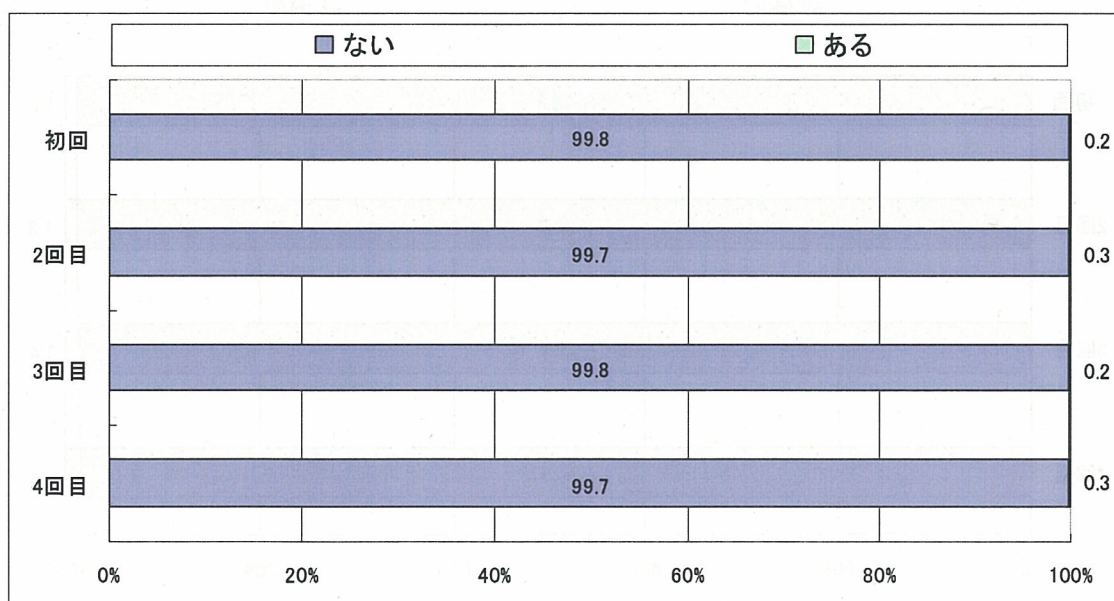
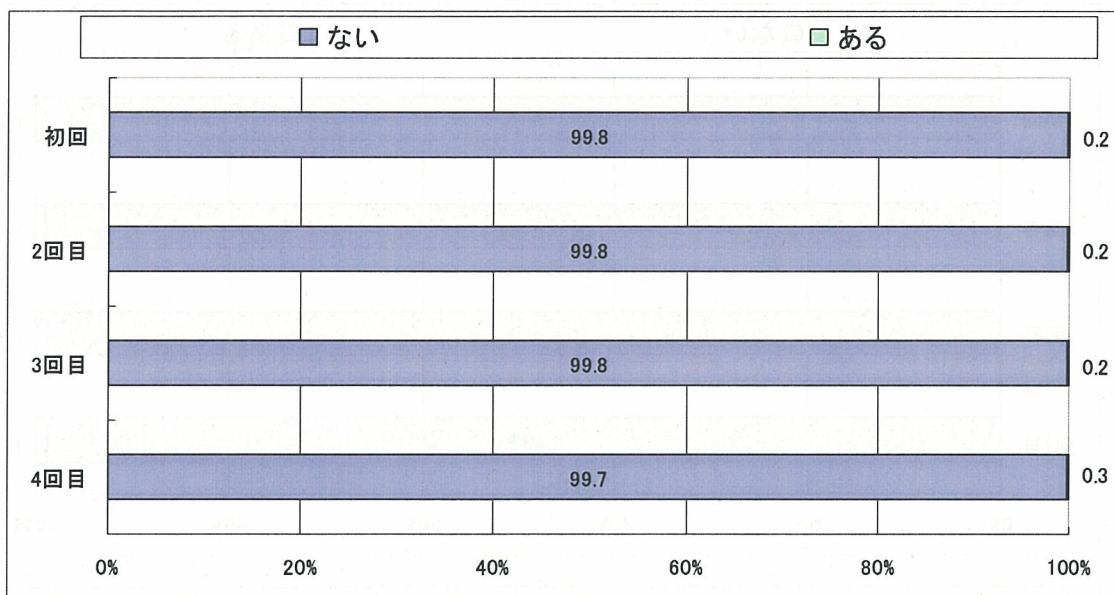


図 327・328 ストーマの処置 (上：全体 N=16,156, 下：予防有用型 N=6,597)

(5) 酸素療法

予防有用型では、酸素療法については、初回は、「ない」が6,472名(98.1%)で、「ある」が125名(1.9%)であった。2回目は、「ない」が6,469名(98.1%)で、「ある」が128名(1.9%)であった。3回目は、「ない」が6,466名(98.0%)で、「ある」が131名(2.0%)であった。4回目は、「ない」が6,452名(97.8%)で、「ある」が145名(2.2%)であった。

全体の傾向と比べて、予防有用型群は、2回目から4回目にかけて、わずかに「酸素療法あり」の割合が増加していた。

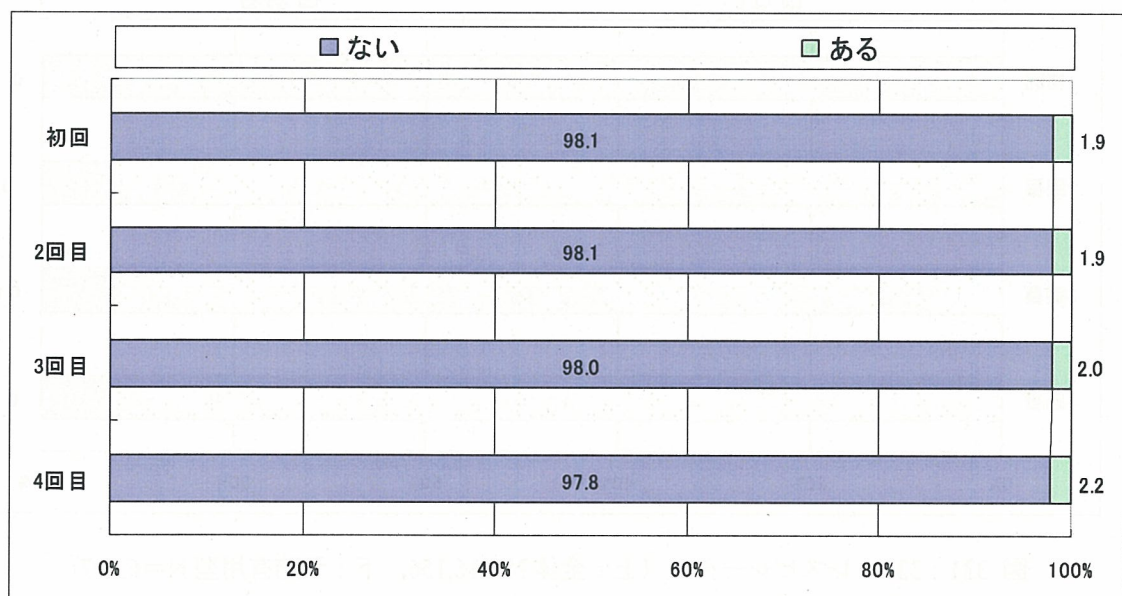
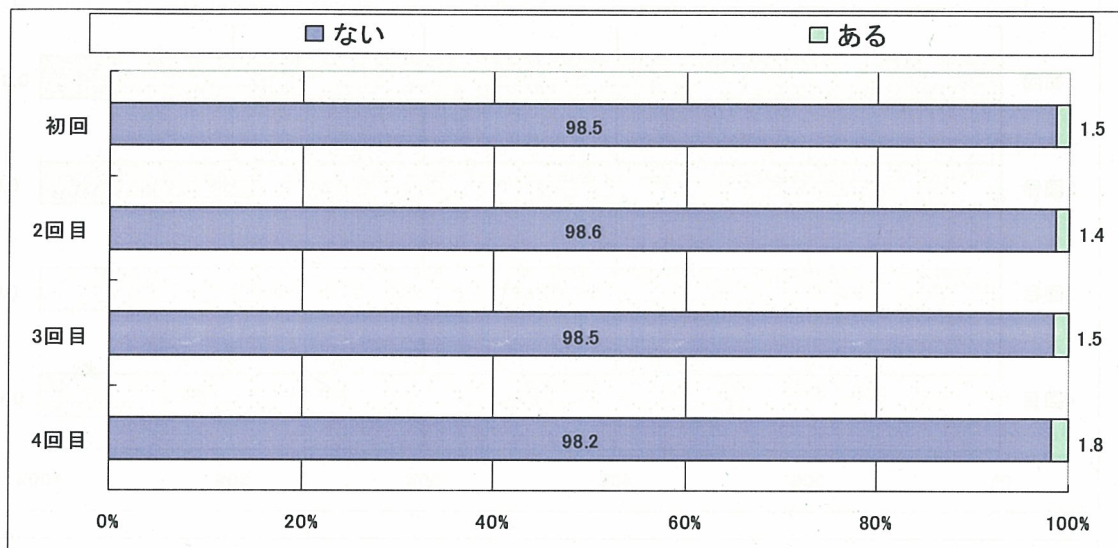


図 329・330 酸素療法 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(6) レスピレーター

予防有用型では、レスピレーターについては、初回は、「ない」が6,595名(100%)で、「ある」が2名(0%)であった。2回目は、「ない」が6,595名(100%)で、「ある」が2名(0%)であった。3回目は、「ない」が6,593名(99.9%)で、「ある」が4名(0.1%)であった。4回目は、「ない」が6,594名(100%)で、「ある」が3名(0%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「レスピレーター」は発生しておらず、回数別の発生率にも、ほとんど変化がなかった。

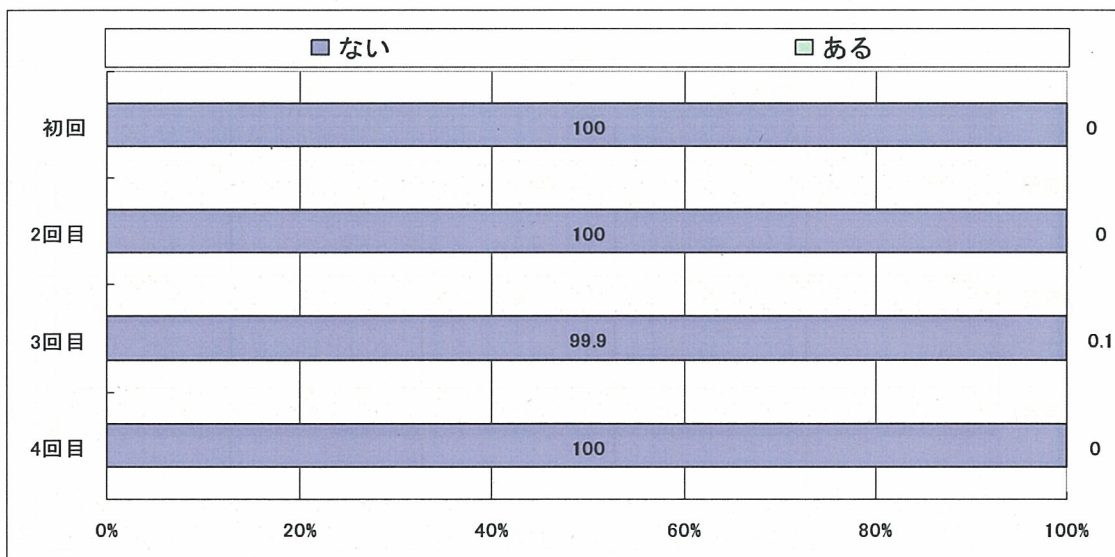
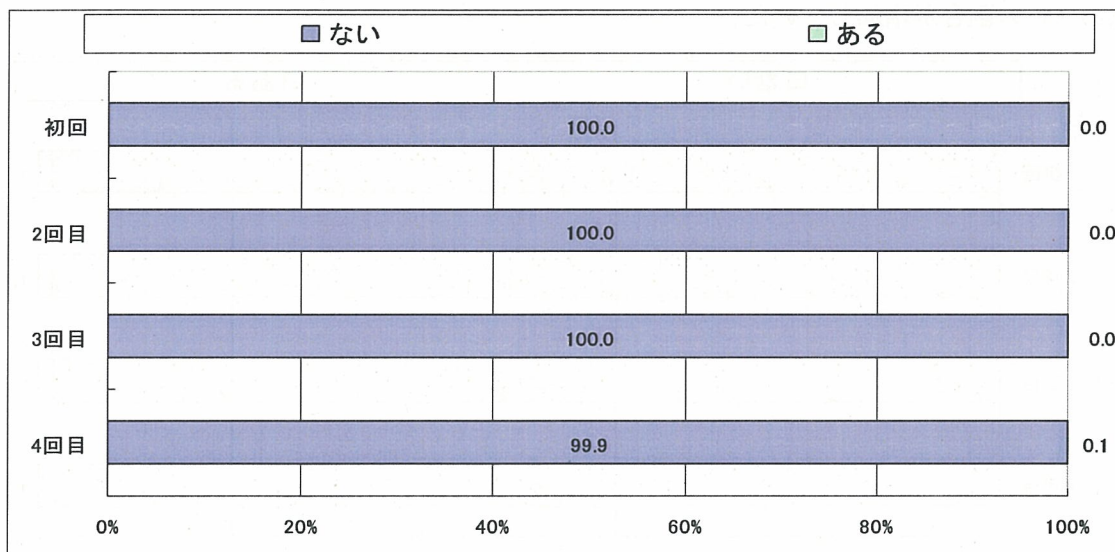


図 331・332 レスピレーター (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(7) 気管切開の処置

予防有用型では、気管切開の処置については、初回は、「ない」が6,585名(99.8%)で、「ある」が12名(0.2%)であった。2回目は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ある」が5名(0.1%)であった。3回目は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ある」が5名(0.1%)であった。4回目は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ある」が5名(0.1%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて気管切開の処置は発生しておらず、回数別にも変化もなかった。

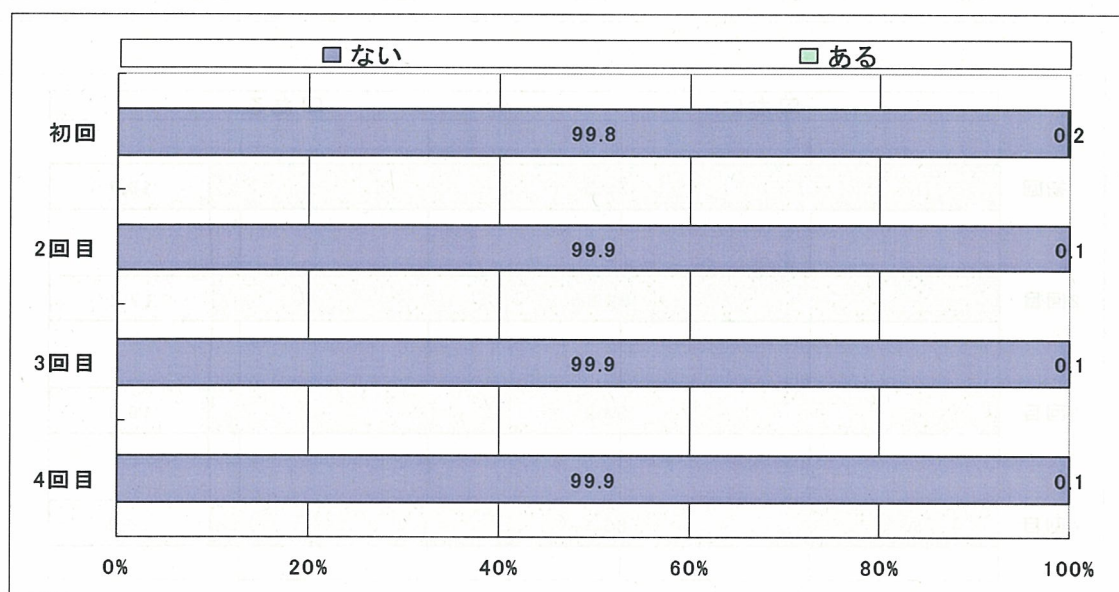
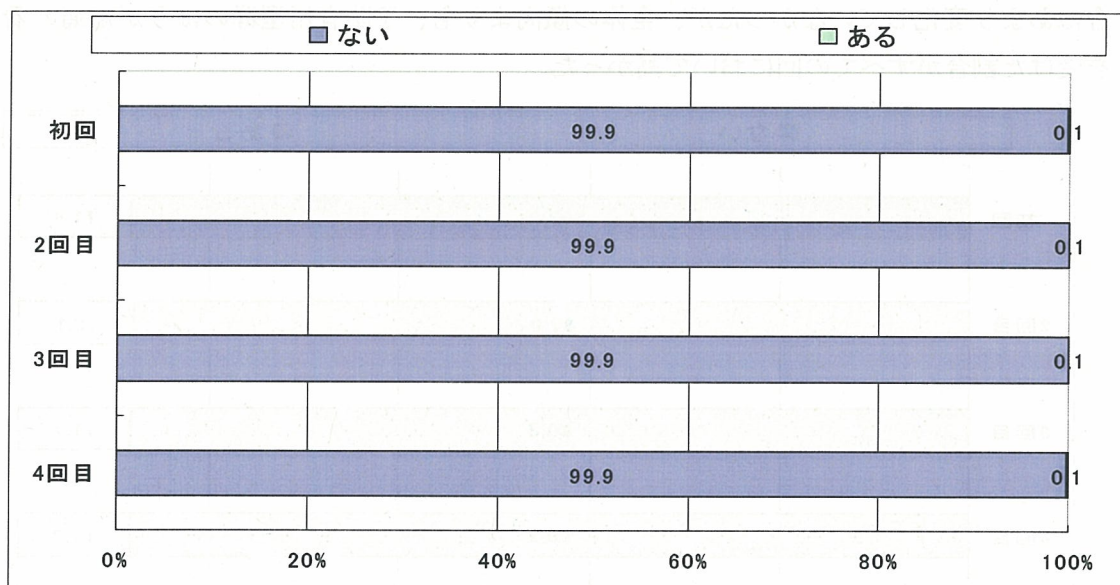


図 333・334 気管切開の処置 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)